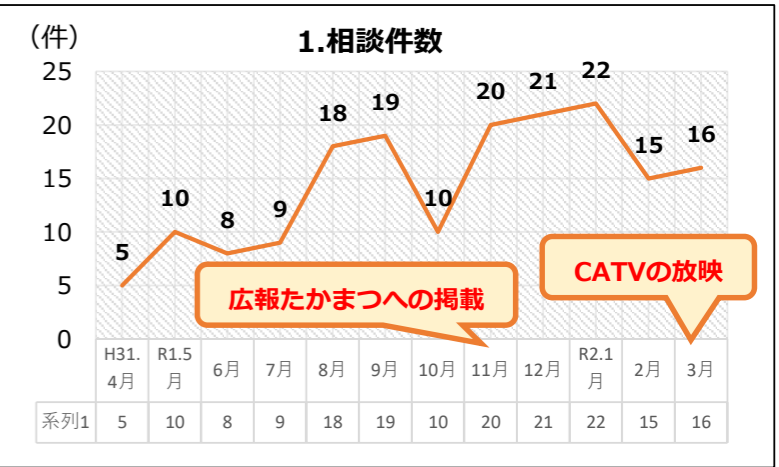


◆ 高松市在宅医療支援センター年間活動報告【平成31年4月～令和2年3月15日】

1.相談件数 (件)

H31.4月	R1.5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R2.1月	2月	3月	合計
5	10	8	9	18	19	10	20	21	22	15	16	173



2.相談方法 (件)

電話	来所	訪問	合計
124	40	9	173

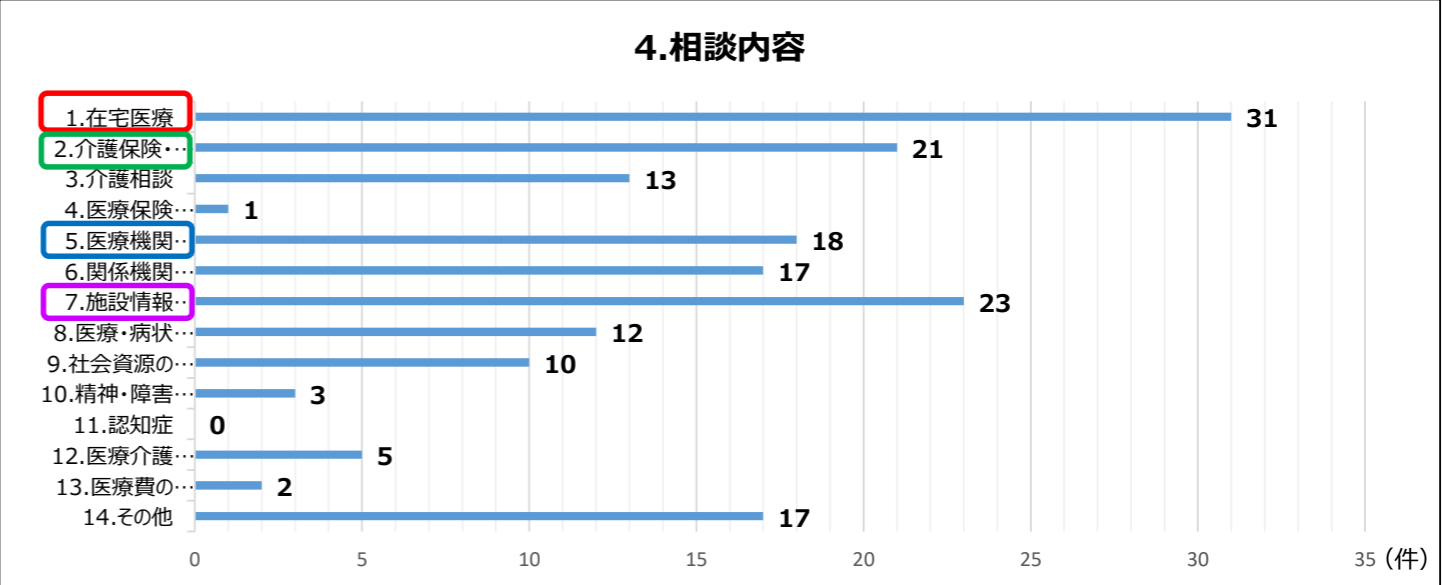
広報たかまつへの掲載

3.相談者 (人)

本人	ケアマネジャー	医療機関 地域連携室	地域包括 支援センター	行政	サービス 提供事業者	その他	合計
99	26	21	9	5	2	11	173

4.相談内容 (件)

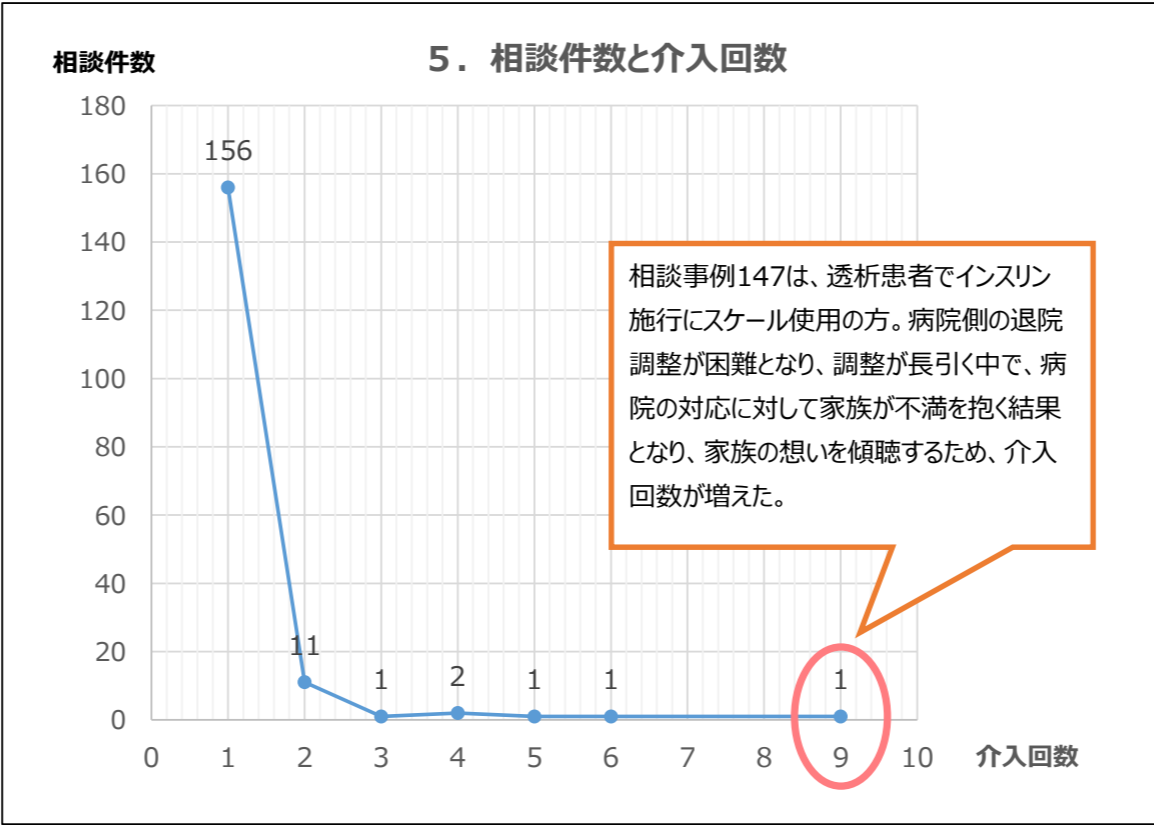
1.在宅医療・在宅療養	2.介護保険・制度	3.介護相談	4.医療保険・制度	5.医療機関 情報提供	6.関係機関 紹介	7.施設情報 提供	合計
31	21	13	1	18	17	23	
8.医療・病状・治療	9.社会資源の 情報提供	10.精神・障 害・福祉制度	11.認知症	12.医療 介護連携	13.医療費の 支払い・管理	14.その他	
12	10	3	0	5	2	17	173



・・・令和2年3月より相談内容として追加した項目。
在宅医療、介護保険サービス、介護相談、医療機関情報、関係機関紹介、普及啓発、その他の7項目であったが、普及啓発については、開設から現在まで相談件数は0件であるため、相談項目から除外した。また、その他がH31.4月からR2.2月までの11か月間で41件と一番多くなっていることから、再度分類分けの必要性を感じ、新規に7項目を追加し、計14項目とした。
項目追加により、適切な項目に分類することができた。

5.複数回の相談介入の経過

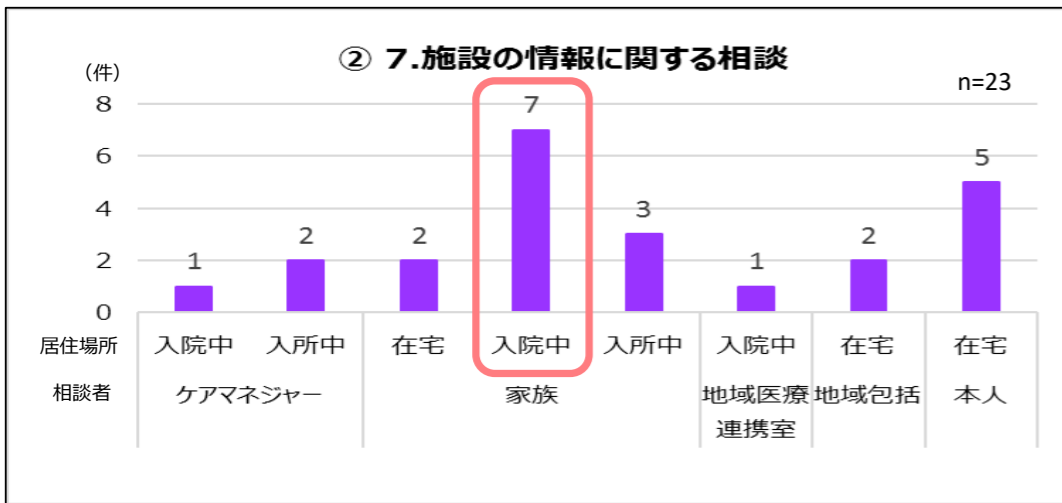
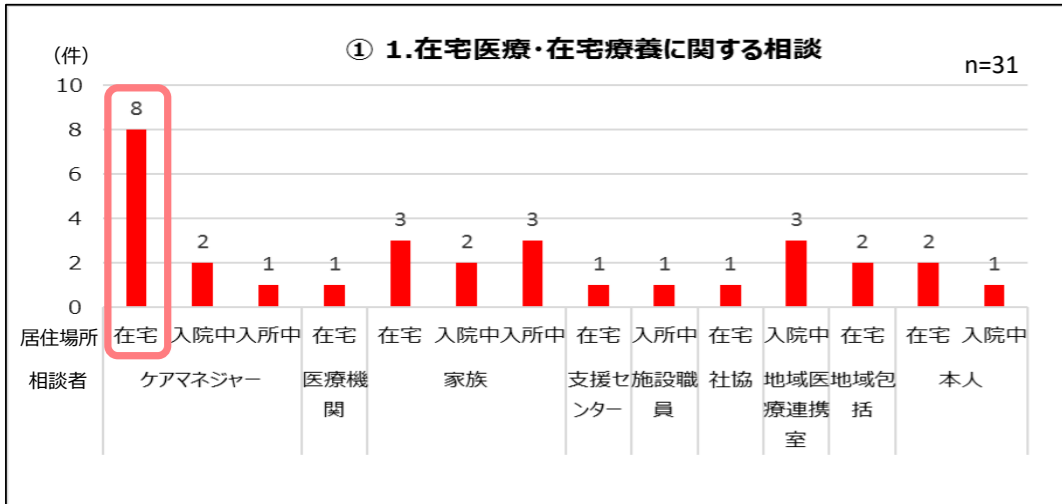
No	相談番号	介入回数	介入月/月	介入期間/月
1	59	2	6-8	3
2	77	2	8	1
3	79	4	8-9	2
4	94	2	9	1
5	103	2	9	1
6	123	3	11-1	3
7	135	2	11	1
8	146	2	12	1
9	147	9	12-3	4
10	149	2	12	1
11	161	5	12-1	2
12	167	2	1	1
13	183	6	1-2	2
14	188	4	2-3	2
15	189	2	2	1
16	192	2	2	1
17	213	2	3	1



相談から見てきた現状

- ◆相談件数：年間173件。広報たかまつ（11/15号）に「支援センターの紹介」を掲載後は相談件数が月平均7件増となった。以前は単発の相談が多かったが、介入回数も多く、期間も長い相談も増加している。
- ◆相談方法：電話相談が124件（72%）と一番多く、相談者は、本人・家族が99件（57%）と半数以上で、次に多いのがケアマネジャー26件（15%）、医療機関20件（12%）だった。
- ◆相談内容：1.在宅医療・在宅療養に関する相談が31件と一番多く、次が7施設の情報に関する相談（23件）であった。
- ◆相談事例からの課題：
 - ・透析患者等の、医療依存度の高い方の自宅以外の退院後の受け入れ先が限られており、退院調整に困難を極めている。
 - ・金銭面で不安を抱えるケースが多い。
 - ・在宅療養を選択した際の家族の負担を軽減する体制づくりが必要。
 - ・精神疾患を抱える患者の受け入れ（在宅診療・往診も含めて）ができる診療所が少ない。また、在宅の未受診者に対するサポート体制が限られている。

6.相談内容の分析（相談者と対象者の居住場所より）



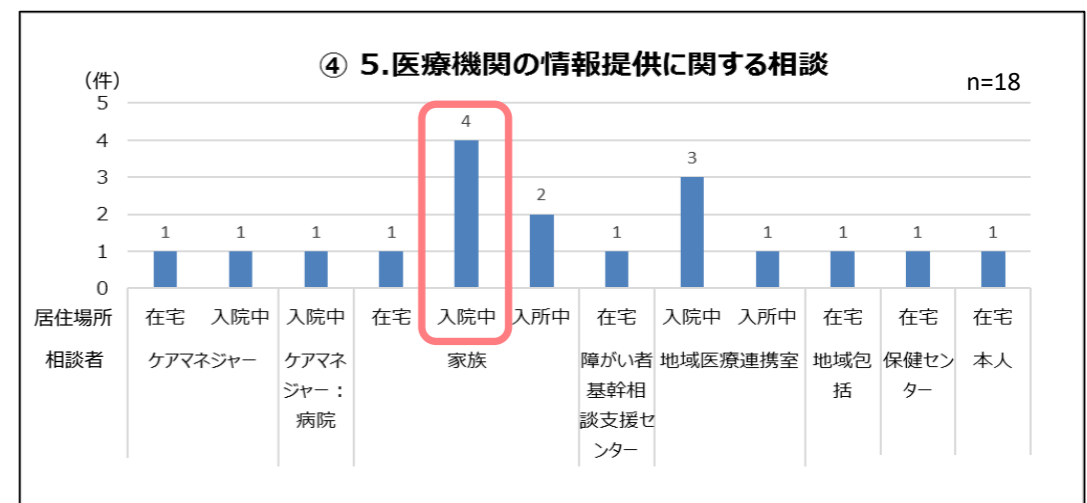
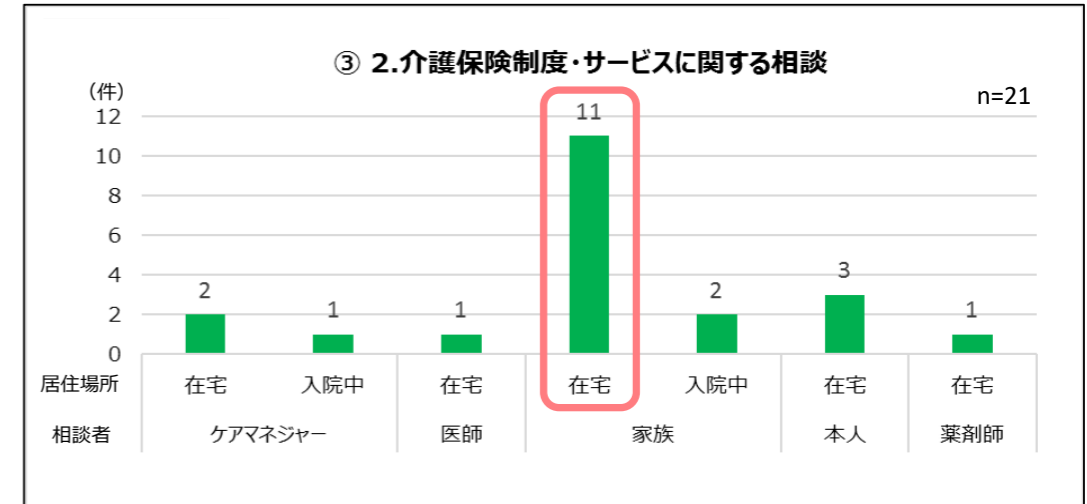
相談内容の上位4項目を相談者と対象者の居場所で分類した。

①在宅医療・在宅療養に関する相談では、在宅（施設含む）で過ごされている対象者に関する相談が多い。相談者はケアマネジャーが一番多く、次いで家族となっている。具体的な相談内容は、訪問診療、訪問看護の紹介や連携、サービス内容に関する相談となっており、相談後は、訪問診療・訪問看護の利用に結びついている。

②施設の情報に関する相談では、医療機関でも退院調整はされているが、入院中の家族からの相談が一番多い。また、在宅で過ごされている本人からの相談は、将来的に施設入所を検討されており、入所に必要な金額や入所要件などの問い合わせが多くなっている。

③介護保険制度・サービスに関する相談では、介護保険制度の存在は認知しているものの、申請方法やサービス内容について理解されていない方が多くみられた。介護保険課や居宅支援事業所との連携にてサービス利用に繋がった相談事例もあった。

④医療機関の情報提供に関する相談は、急性期病院からの退院にあわせて転医先を検討される相談が多く、医療依存度が高く、施設での受け入れが難しいため、転医を検討している事例もみられた。また、件数は少ないが、精神疾患が疑われる方が未受診の為、訪問可能な医療機関に関する相談があったが、解決に至らない事例となっている。



7.普及・啓発活動

①講座等

会議・研修、所属名【対象】	開催回数	参加人数	講座及び普及内容
多肥実年セミナー【市民】	1	33	・在宅医療・介護連携推進事業 ・在宅医療支援センターの機能と役割
①高齢者住宅等安心連絡協議会 ②相談協力員連絡会【LSAの人】	2	19	・在宅医療・介護連携推進事業 ・在宅医療支援センターの役割
1 1 居宅介護支援事業所【ケアマネジャー】	2	40	・在宅医療・介護連携推進事業 ・在宅医療支援センターの役割
看護連盟第3東支部会【看護師等】	1	108	・在宅医療・介護連携推進事業 ・在宅医療支援センターの役割
権利擁護・高齢者虐待対応検討会【社会福祉士】	1	17	・在宅医療・介護連携推進事業 ・在宅医療支援センターの活動
第1回在宅医療コーディネーター養成研修会【在宅医療コーディネーター】	1	45	・在宅医療支援センターの機能と役割
まなび館コミュニティセンター主任連絡会【コミュニティセンター主任】	1	60	・在宅医療支援センターの紹介 ・次年度出前講座の紹介 ①「在宅療養」知とんな？ ②人生会議の準備をしませんか？

②医療機関、関連機関等への訪問

訪問先	訪問件数
医療機関（病院・クリニック等）	64
介護福祉施設	30
居宅介護支援事業所	13
訪問看護ステーション	6
社会福祉協議会・地域包括支援センター	7
その他：他市在宅医療介護連携支援センター、看護協会等	7

①講座開催からの気づき・意見、課題等

・市民の方は、在宅療養についての具体的なイメージが得られていないように感じた。また、専門職の方も、勤務場所により、在宅療養について十分イメージが得られていない方もいる。
・訪問診療のメリットがわからない、料金が高い、どう医療を受けられるのか、状態変化時の対応や介護する家族の健康不安等、在宅療養に対して否定的なイメージを持つ方も多いように思う。
・ケアマネジャーの中には、担当している利用者について、医療従事者に相談したいと思っているが、その機会が得られにくく、連携が十分でないと感じている方もいる。

【次年度の取組】 市政出前ふれあいトークの講座に「在宅療養」についての講座を追加し、市民に対して普及啓発を図っていく。

②医療機関、関連機関等への訪問から見てきた現状・課題等

・在宅医療ネットワーク会員内50医療機関と会員以外の14医療機関の訪問時に訪問診療の状況について伺った。訪問エリアや患者の状態等を考慮し、相談の上、訪問可能である医療機関は45か所、訪問依頼にて対応可能な医療機関は18か所であった。ケアマネジャーから、庵治地区の訪問診療を依頼できる医療機関が少ないとの情報を得た。

・耳鼻科、眼科の訪問診療可能な医療機関と連携が取れ、訪問に繋がった。

・市民のニーズのある、婦人科や精神科の訪問診療可能な医療機関との連携が取れていない。

・訪問診療を実施している皮膚科の医師より、褥瘡の悪化時に連携のとれる入院施設がなく困っているとの情報を得た。

・クリニックや病院の医師の多くは、一人体制で診療されているため、訪問診療を行う時間に制限があったり、24時間対応を行うことは心身ともに厳しい状況である。

【次年度の取組】 関係職種が、高松市入退院支援ルールに基づいて、入退院支援情報共有シートを使用し、連携できるようサポートしていく。市内の訪問看護ステーションへの訪問を行い、在宅療養の実態を把握することで、相談業務や講座に活かしていく。